

第1回京都市美術館評議員会「将来構想検討委員会」次第

日時：平成25年7月30日(火)

午後2時～午後4時30分

会場：京都市美術館2階応接室

1 開 会

2 挨拶 門川 大作 京都市長

潮江 宏三 副委員長

3 委員自己紹介

4 議 事

(1) 京都市美術館が目指すべき方向性について

(2) 美術館の展示の在り方について

<配布資料>

資料1 京都市美術館評議員会「将来構想検討委員会」設置要綱

資料2 今後の検討委員会のスケジュール（案）

資料3 美術館の概要

資料4 目指すべき方向性について

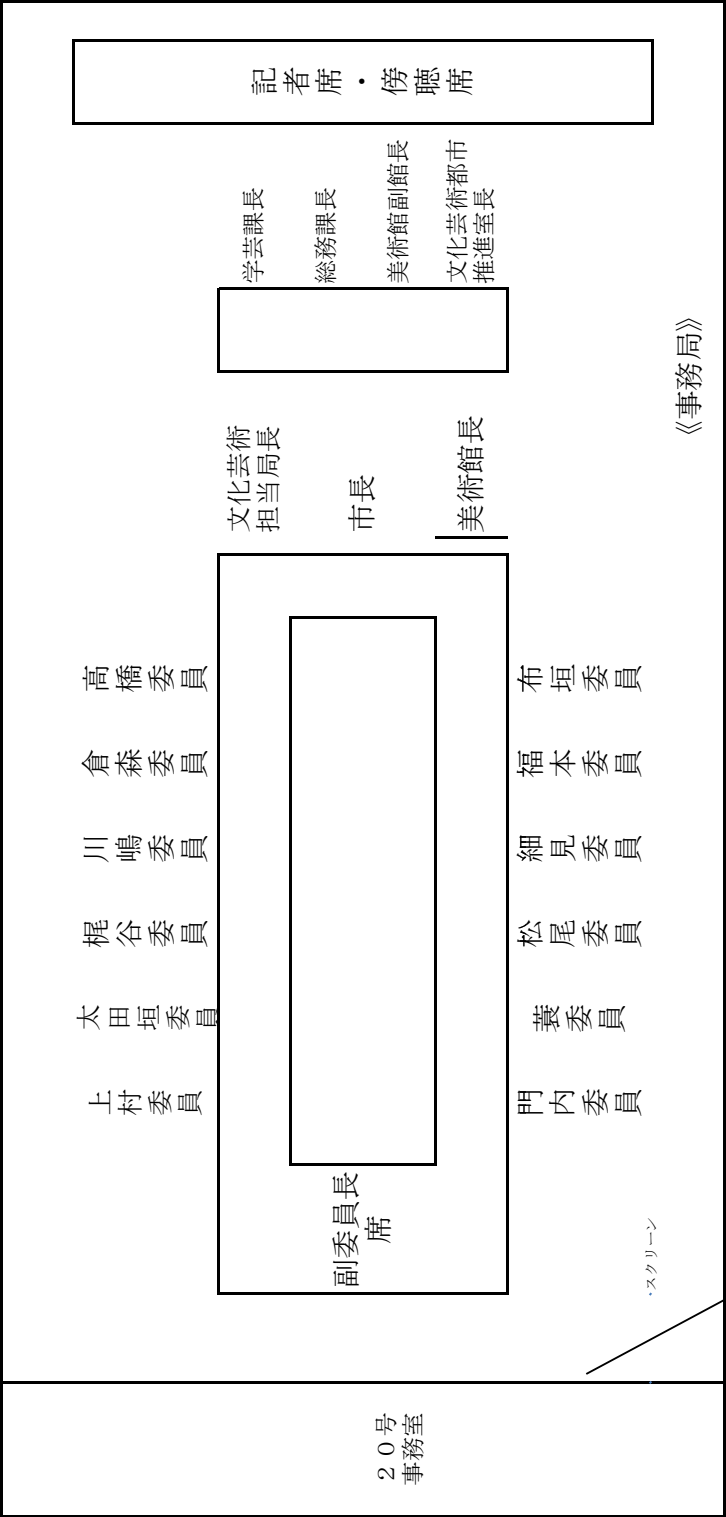
資料5 京都市美術館展覧会の現状

(参 考)

- ・京都市美術館評議員会「将来構想検討委員会」委員名簿
- ・委員座席表

第1回京都市美術館評議員会「将来構想検討委員会」座席

開会時



京都市美術館評議員会「将来構想検討委員会」委員名簿

(五十音順 敬称略)

氏 名	職 名
上村 淳之	日本画家，京都市学校歴史博物館館長，松伯美術館館長
内山 武夫	美術評論家
太田垣 實	美術評論家，元大阪成蹊大学教授
梶谷 宣子	染織美術研究家，メトロポリタン美術館終身名誉館員
加須屋 明子	京都市立芸術大学芸術学部准教授
川嶋 啓子	市民公募委員
倉森 京子	NHK エデュケーショナル特集文化部専任部長
高橋 信也	森ビル株式会社顧問・森美術館顧問
建畠 哲	京都市立芸術大学学長，公益財団法人京都市芸術文化協会理事長
布垣 豊	京都中央信用金庫理事長，京都市美術館友の会会長
福本 双紅	市民公募委員
細見 良行	細見美術館館長
松尾 恵	公益財団法人京都市芸術文化協会理事，財団法人京釜文化振興財団評議員
蓑 豊	兵庫県立美術館館長
門内 輝行	元岡崎地域活性化ビジョン検討委員会委員長， 京都岡崎魅力づくり推進協議会アドバイザー，京都大学大学院工学研究科教授
奥 美里	京都市文化市民局文化芸術担当局長
潮江 宏三	京都市美術館長

京都市美術館評議員会「将来構想検討委員会」設置要綱

平成 25 年 6 月 13 日
文化芸術担当局長決定

（設置）

第 1 条 京都市美術館の将来構想の策定に向けた具体的な方策等について、必要な事項を検討するため、京都市美術館評議員会（以下「評議員会」という。）の下に京都市美術館評議員会「将来構想検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を設置する。

（組織）

第 2 条 検討委員会は、委員 20 名以内をもって構成する。

2 委員は、評議員会議長が適当と認める者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

（委員長及び副委員長）

第 3 条 検討委員会に委員長、副委員長を置く。

2 委員長は、評議員会議長を、副委員長は、京都市美術館長をもって充てる。

3 委員長は、検討委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（委員の任期）

第 4 条 委員の任期は委嘱の日から平成 26 年 3 月 31 日までとする。

（会議）

第 5 条 検討委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して、会議への出席、意見の陳述、説明その他必要な協力を求めることができる。

（会議の公開）

第 6 条 会議は公開とする。ただし、委員長が必要と認める場合は、非公開とすることができる。

（報酬）

第7条 委員には、会議出席ごとに報酬を支払う。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、京都市美術館総務課において行う。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

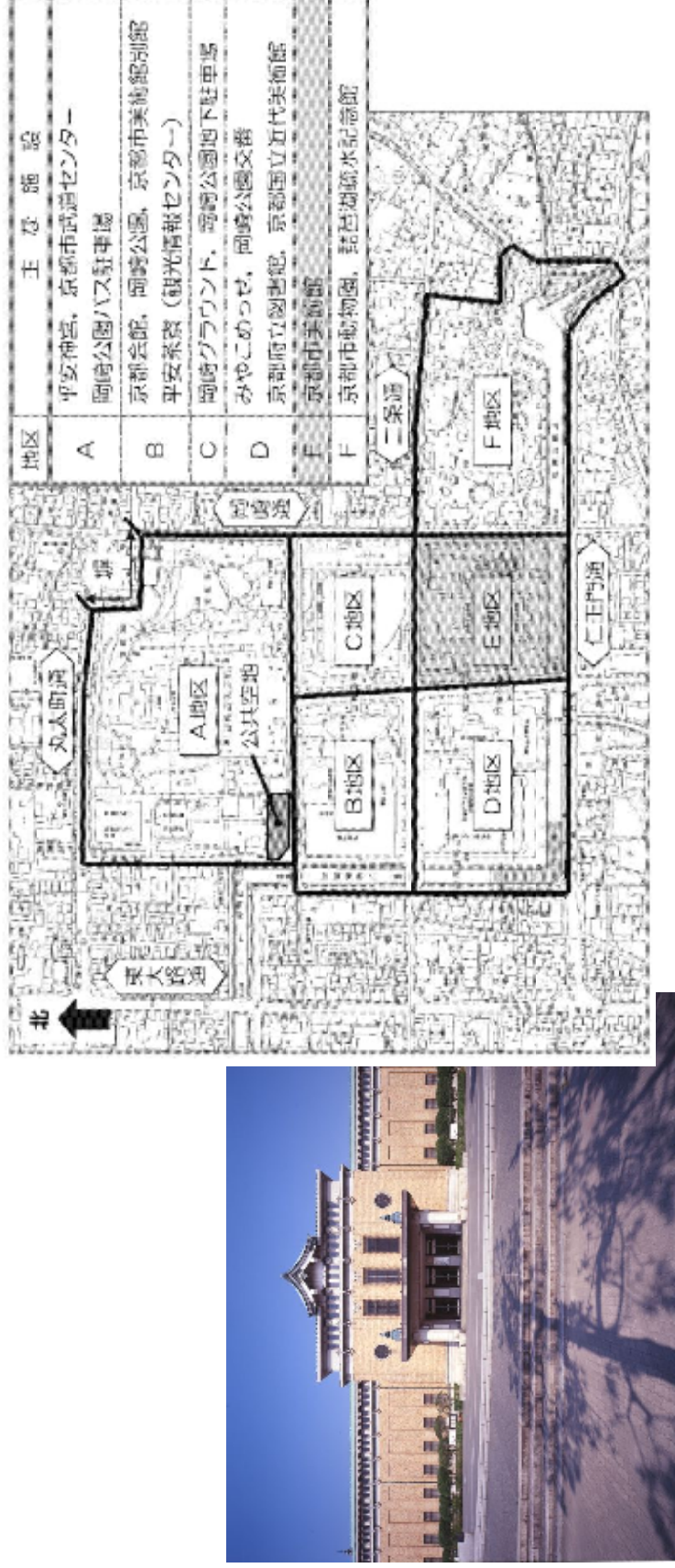
この要綱は、決定の日から施行する。

美術館の概要

京都市美術館の立地状況

- 京都最大の文化・交流ゾーンである岡崎に位置
琵琶湖疏水をはじめ、みやこめっせ、ロームシアター京都(京都会館)、動物園、平安神宮、京都国立近代美術館等が隣接し、多彩な文化交流施設が集積。
- 「岡崎地域活性化ビジョン」(平成23年5月)
京都市では、岡崎の景観や地域資源を継承し、その魅力を最大限に引き出すために、「岡崎地域活性化ビジョン」を策定。
- 「岡崎文化・交流地区 地区計画」(24年2月)
岡崎活性化ビジョンの実現のため、都市計画制限等の見直しを行い、「岡崎文化・交流地区 地区計画」を策定。
- 歴史上の位置付け
岡崎地区は平安時代後期の院政の舞台となった地域であり、「院の御所」が築かれ、法勝寺をはじめとする六勝寺の巨大寺院群が出現。
東隣の動物園の敷地内からは、法勝寺の八角九重塔の一部とされる遺構が出土。

岡崎文化・交流地区 地区計画区域図

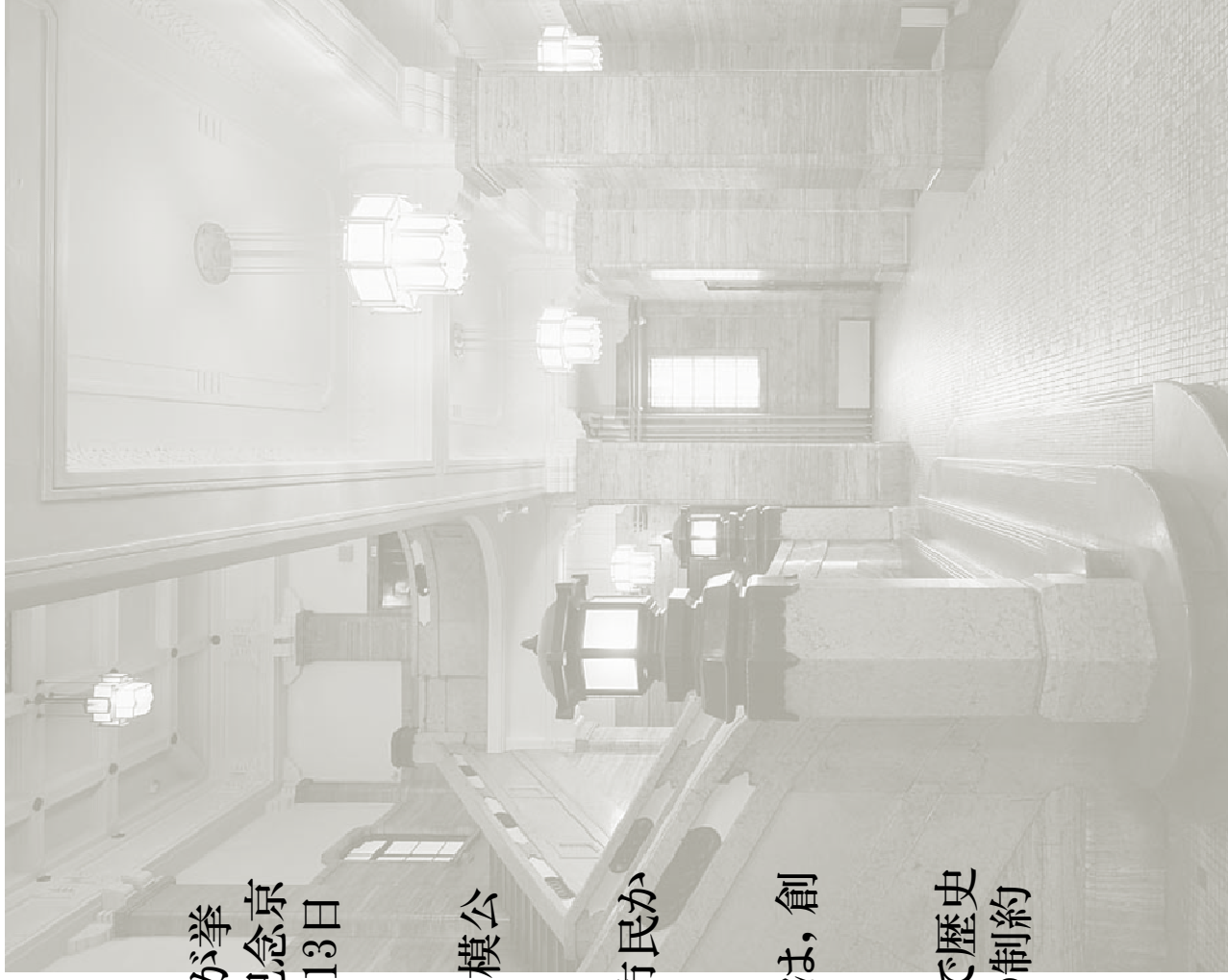


都市計画上の法規制

- ・岡崎公園(都市公園法に基づく都市公園)
- ・第二種住居地域(都市計画法に基づく用途地域)→**建蔽率60%、容積率200%**
- ・岡崎文化芸術・交流拠点地区(建築基準法に基づく特別用途地区)→**E地区の主要施設は美術館。E地区の主要施設部分の高さは25m以下(現在22m),それ以外は15m以下。**
- ・岡崎公園地区特別修景地域(京都市風致地区条例に基づく地域)→**建蔽率40%以下。街区緑地率35%。**

美術館の設立概要

- 1928(昭和3)年に京都で天皇即位の大典が挙行された折,その記念事業として,「大礼記念京都美術館」の名称で,1933(昭和8)年11月13日に開館。
- 東京都美術館に次ぐ日本で二番目の大規模公立美術館。
- 建設費用は,関西財界はもとより,多数の市民からの寄付の協力を得て建設。
- 東京都美術館が改築された現在においては,創建当時の姿を残す由緒ある建物である。
- シンプルな前後左右対称形のため,重厚で歴史ある外観を誇るが,他方で内部スペースの制約がある。



1. 施設の概要

- **本館**
設計競技の公募により一等入賞した前田健二郎の設計図案を基に,1931(昭和6)年着工, 1933(昭和8)年竣工。
- **別館**
昭和5年に京都市公会堂東館として建てられ, 昭和39年より京都会館別館として用いられていた近代和風の建物。外観は保全, 内部を全面改修し, 平成12年に美術館別館として新設。

	本館	別館
敷地面積	24,331㎡	(京都会館敷地内)
構造	鉄筋コンクリート2階建	鉄筋コンクリート一部鉄骨
建築面積	4,657㎡	892㎡
延床面積	9,349㎡	1,967㎡
陳列面積	5,039㎡	916㎡
展示室数	24室	2室
総壁面長	1,832m	372m

2. 入場者数

ここ数年は70万人から130万人で推移。有名な海外の大型展覧会などにより、平成23年度には約130万人の来館客があったが、海外展により大きく上下している。

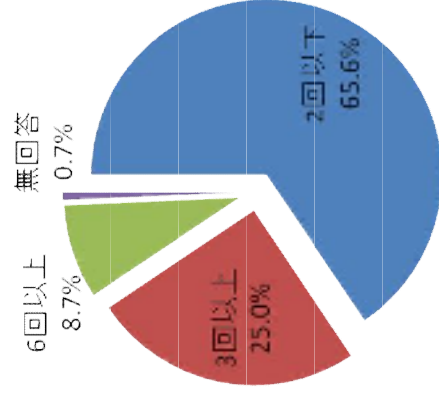
年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総数	1,111,357人	829,132人	1,287,166人	718,266人

来館者の年間来館頻度、居住地

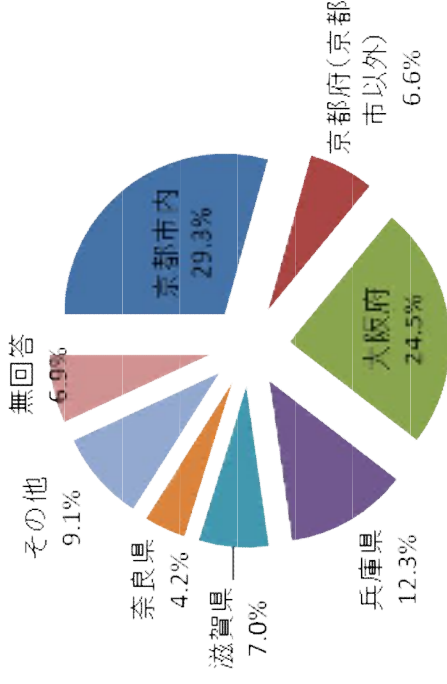
(平成23年度の「来館者調査」より)

- ・ 来館者の年間来館頻度は、「2回以下」65.6%、「3回以上」25.0%、「6回以上」8.7%であった。
- ・ 来館者の居住地については、京都市内をはじめ、大阪府内からの来館者が多く、また兵庫県内からの来館者も1割を超える。

年間来館頻度



来館者の居住地



3 収蔵品について

合計 3,024点

(平成25年3月現在)

日本画	1,059点
油彩画	688点
版画	454点
彫刻	148点
工芸	586点
書	89点

4 貸館展

- ・美術団体の公募展・会員展，芸術系大学等の主催の展覧会場として貸館している。
- ・平成12年度の別館開館により，ギャラリー機能が充実，毎年150の展覧会が開催され，稼働率も9割を超えている。

年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総数	148件	146件	147件	134件

5 京都市美術館評議員会

- 京都市美術館条例に基づき設置。
- 美術館の運営に関する事項について、市長の諮問に応じ、調査し、また審議するため設置。
- 市長より委嘱。評議員数現行15名（作家、学識者等で構成，議長：内山武夫氏）
- 任期2年（平成23年8月1日～平成25年7月31日）



6 京都市内4館連携協力協議会

- ・市内所在の大型展示施設を有する国公立博物館・美術館の4館により設置。

＜目的＞

連携協力及び館運営に係る情報の交換等を通じて、各館の展覧を目的とする。
国際観光都市・京都における文化・芸術及び生涯学習の振興に寄与する。

設立	平成21年6月12日
加盟館	京都国立近代美術館，京都国立博物館，京都府立文化博物館，京都市美術館
主な活動	平成22年度 京都ミュージアムズ・フォー連携講座 4回開催 4館年間スケジュールの作成 友の会会員相互割引制度の実施
	平成23年度 上記，平成22年度の事業のほか スタンプラリーの実施（10月1日～11月30日） 4館連携協力協議会のWEBページ開設
	平成24年度 平成23年度と同様の事業を実施

7 広報普及活動

ア 京都市美術館ホームページの開設（平成14年度）

<http://www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma>

- ・市民の多様なニーズに対応するため、広報活動の一環として、情報発信
- ・主催展・共催展の案内を中心に、友の会案内や主催展でのワークショップ等の申込受付等のための美術館のメールアドレス(bijutsukan@city.kyoto.jp)を設定。
- ・平成22年度には、「所蔵品の紹介」コーナーも設置。

<http://www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma/collection/index.html>

イ 市民しんぶんへの掲載

京都市広報紙「きょうと市民しんぶん」(毎月2回発行(8月は除く)1日号は全市版, 15日号は各区版, 約55万世帯へ全戸配布)へ随時, タイムリーな展覧会情報を掲載。

ウ 刊行物として, 「美術館ニュース」を年2回, 「美術館年報」を年1回発行し, 美術家, 報道関係, 関連施設等に無料配布。

エ 「るるぶ」や「マップル」等, 毎年100件以上依頼のある一般情報雑誌等に美術館展覧会情報を掲載

8 美術館友の会

- ・ 市美術館事業の普及・啓発を目的に発足（昭和32年11月，発足時会員285名）
- ・ 魅力ある友の会を目指して，関連施設と連携強化し，会員特典の充実を図っている。
- ・ 平成21年度からは，「シニア会員」制を新設，また，下半期からの入会受付も開始。
- ・ 平成25年7月末現在会員数約2,000人に達する。

会員数	1,997人（平成25年7月末現在）
会長	京都中央信用金庫理事 長 布垣 豊 会長
会費	個人会費 4,500円
	シニア会員 4,000円（70歳以上の方）
	団体会員 4,000円（平成25年7月末現在915人）
	学生会員 2,500円
	* いずれも年会費（下半期の場合は半額）
主な事業内容	見学会（年2回程度），アトリエ訪問（年2回程度），文化施設めぐり（年2回程度），講演会開催のほか，友の会ニュースを発行し，展覧会案内等の情報提供も行っている。

◎目指すべき方向性について

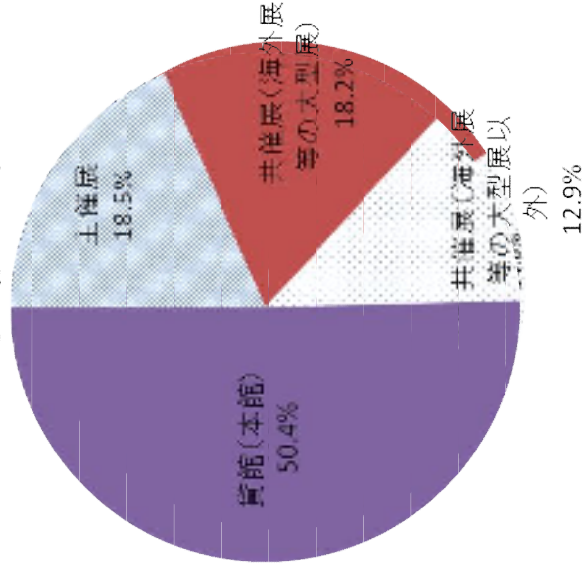
- ①京都画壇に代表される京都美術,工芸美術の伝統を継承する
- ②時代を反映した「今」を発信する
- ③休憩する空間やアメニティの充実を図る
- ④文化芸術ゾーンである岡崎地域の中核施設としての役割を担う

京都市美術館 展覧会の現状

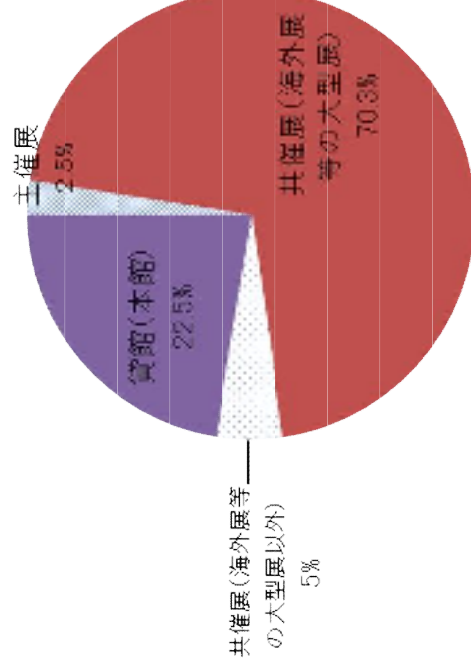
展覧会開催状況

- 京都市美術館では、主催展、共催展（海外展）、共催展（その他）、貸館としての開催展という4つの異なる展覧会を開催。
- 京都市美術館は、大規模な企画展の会場として、またさまざまな団体展の会場として人気が高く、多くの市民及び来訪客を集めている。その人気、需要には今後とも応えていく必要がある。
- 一方で、貸館希望の団体が多く、年間150の展覧会を開催しているが、飽和状態であること、また、利用団体が固定化されてきている。また、大型展の入場者が主催展に移行するようにはなっていないこともあり、主催展入場者は少ない。

延べ開催日数



入場者数



1 常設展ができていない

2 主催展(コレクション展)

	展覧会名	日数	入場者数
平成22年度	京都市美術館コレクション展 第1期 「円と方」	63日	9,309人
	京都市美術館コレクション展 第2期 「京の閨秀・女流・女性画家—担ったもの／担わされたもの」	57日	18,166人
	所蔵品展 画家たちのヨーロッパ—浅井忠・太田喜二郎とその系譜—	40日	7,439人
	京都市美術館コレクション展 第1期 京都にさぐる美術の「こころ」	65日	15,985人
平成23年度	京都市美術館コレクション展 第2期 模様をめぐって	51日	6,511人
	京都市美術館コレクション展 第1期 井田照一 版の思考・間の思索	63日	6,714人
平成24年度	京都市美術館コレクション展 第2期 京の画塾細見	82日	20,936人
	たし算とひき算でみる—夏の彫刻展	20日	4,937人

◎十分な広報ができていない

3 共催展

	展覧会名	日数	入場者数
平成22年度	ボストン美術館展	49日	257,848人
	高島屋百華展	38日	34,639人
	芸大130周年記念展	39日	35,948人
	親鸞展	14日	31,418人
平成23年度	フェルメールからのラブレター展	101日	379,528人
	ワシントンショナルギャラリー展	68日	307,456人
	親鸞展	51日	149,915人
	上村淳之展	45日	25,685人
平成24年度	大エルミタージュ美術館展	50日	206,843人
	須田国太郎展	53日	15,110人
	リヒテンシュタイン	12日	19,599人

4 現代美術に特化した展覧会ができていない

5 貸館

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総数	146件	147件	134件
本館	83件	83件	81件
別館	63件	64件	53件

全国巡回展の動向

	開催数	シェア
京都市美術館	19	68%
京都国立近代美術館	—	—
京都国立博物館	—	—
京都文化博物館	—	—
大阪市立美術館	9	32%
国立国際美術館	—	—
兵庫県立美術館	—	—
神戸市立博物館	—	—
計	28	100%

(参考) 京都市美術館展覧会入場者数順リスト

順位	展覧会名	会期	種別	開催 年度	開催 日数	入場者数	1日当たり 入場者
1	ツタンカーメン展	10/15～11/28	共催展	昭40	45	1,074,495	23,878
2	ミロのビーナス特別公開	5/21～6/25	共催展	昭39	36	891,094	24,753
3	ルーブルを中心とする フランス美術展	1/26～3/15	共催展	昭36	49	746,314	15,231
4	ゴヤ展	1/29～3/15	共催展	昭46	47	718,749	15,293
5	ルーヴル美術館展	6/30～9/27	共催展	平21	80	618,321	7,729
6	エジプト美術5千年展	5/26～7/21	共催展	昭38	57	586,114	10,283
7	メトロポリタン美術館展	10/8～11/26	共催展	昭47	50	483,797	9,676
8	ロダン展	9/18～10/30	共催展	昭41	43	446,009	10,372
9	ルーヴル美術館展	7/30～10/16	共催展	平17	70	424,810	6,069
10	フランス美術展	1/15～2/10	共催展	昭29	23	420,344	18,276